

キャリア教育
Q & A

Q キャリア教育を始める第一歩として、何から取り組んだらよいのでしょうか？

A キャリア教育に取りかかるに際してどうしても大がかりなことをイメージしがちですが、大切なことは「新しいことを始めるという感覚を捨てる」ことです。これまでの教育活動を小・中・高等学校の12年間のキャリア教育の中に位置付けて見直し、整理することが始めることになるのです。まずは、教科、領域、総合的な学習の時間のどれかに絞って整理を始め、実践を繰り返しながら教育活動全体に拡大していくようにしましょう。(p.10)

Q 職場体験に取り組んでいる学校が多いですが、今後どのように取り組んでいけばよいのでしょうか？

A 上越市では職場体験はキャリア教育の柱であると考え、中学生の5日間程度の職場体験学習の取組を進めています。この職場体験学習を全中学校に広げるために「上越市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会」を立ち上げ、実践を始めています。各中学校では、受入れ事業所との打合せを密にし、実施方法や日数を検討すると同時に、事前・事後の指導の充実を図りましょう。小学校においても活動のねらいに応じて職場見学などに取り組むことも考えられますが、その際には、児童の実態や興味・関心などを考慮して実施することが大切です。(pp.8-9)

Q キャリア・カウンセリングはなぜ必要なのですか？

A キャリア教育においては、自己理解や将来の生き方などにかかわる題材を扱うため、それまで自分が描いていた自己像や将来の生き方に対する考え方と現実のものとの不一致が生じていないことに気付きます。そのために生じる児童生徒の不安や戸惑いに対して、教師のキャリア・カウンセリングの知識や技能は不可欠のものです。教師が日常の学校生活の延長線上で、児童生徒の悩みや戸惑いを受け止め、助言・支援するキャリアカウンセリングを行っていく必要があります。(p.3)

Q 保護者の理解や協力を得るにはどうしたらよいのでしょうか？

A まず、自校におけるキャリア教育を具体的に理解してもらうことが必要です。保護者会やPTAだよりなどを通して考え方を紹介し、どのように取り組もうとしているかを知ってもらうようにしましょう。キャリア教育の授業を参観してもらい説明を加えることも有効です。次に、授業への直接的・間接的な協力を求めましょう。職業人の講話、職業人インタビュー、職場体験に直接参加していただく他、情報の提供をお願いすることも可能です。さらに、保護者によるキャリア教育支援組織を設立し、組織的に学校のキャリア教育にかかわってもらうことも考えられます。

＜キャリア教育に関する参考資料＞

- *進路指導・キャリア教育について (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm)
- *キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～ (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002.htm)
- *「キャリア教育」資料集 研究・報告・手引編 (<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/index.htm>)
- *教育改革のための重点行動計画 (http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/01/06011801.htm)
- *「若者自立・挑戦プラン」における文部科学省の取組について (http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/wakamono/index_h17.htm)
- *教員研修センター・研修支援情報(「キャリア教育研修に関する講義・公開授業」情報が掲載) (<http://sweb.nctd.go.jp/jirei.html>)
- *ジョブジョブワールド(「私のしごと館」提供の職業データベース) (<http://www.shigotokan.ehdo.go.jp/jjw/top.html>)

＜キャリア教育110番＞…困ったときにはご相談ください。

*上越市教育委員会 学校教育課 鬼木英幸 TEL:025-526-5111 FAX:025-526-6184

*上越教育大学 三村隆男研究室 mimura@juen.ac.jp

2-3 <i>pages</i> 上越市でキャリア教育をすすめる理由、考え方、キャリア教育を始める手順などをわかりやすく解説。		6-9 <i>pages</i> すばり!小学校と中学校のキャリア教育実践例を掲載。
	4-5 <i>pages</i> 小学校、中学校の9年間のカリキュラムの組み立ておよびキャリア教育の進め方を解説。	

上越市キャリア教育 テキスト「生きる力」「学ぶ力」「働く力」を育むキャリア教育!!		
10 <i>page</i> キャリア教育で教育活動を見直す。	社会の急激な変化に直面し大人も子どもも生き方にとまどっています。こうした時代に大切なことは、将来のある子どもたちがたくましく未来を拓く力をつけることです。上越市では、子どもの「生きる力」「学ぶ力」「働く力」を育むキャリア教育を推進しています。	11 <i>page</i> キャリア教育の評価
	このテキストは、キャリア教育を理解し、市内の小学校や中学校で「生きる力」「学ぶ力」「働く力」を育むキャリア教育を実践するための手引きとして作られました。 テキストは、上越市内のすべての小・中学校の先生に配布されます。	12 <i>page</i> キャリア教育Q&A キャリア教育アクセス先 キャリア教育110番
	製作／上越市教育委員会 上越市キャリア教育研究推進委員会 上越教育大学教員養成GPプロジェクト実施委員会	

なぜ

キャリア教育に
取り組むのでしょうか？

勤労観、職業観を身に付け、主体的に進路を選択する力を育てる必要があるからです。

子どもたちの現状と課題

- 働くことへの関心や意欲を高めるような勤労体験、社会体験が不足しています。
- 勤労観や職業観、コミュニケーション能力、基本的なマナーなど、社会人・職業人としての基礎的資質・能力が十分には身に付いていません。

学校教育に求められている課題

- 1 学習意欲や目的意識の課題
 - ・主体的な学習態度や学習課題設定意欲の低下
 - ・学ぶ目的が見つからず他律的な学習態度
- 2 学校生活や学校間の移行の課題
 - ・いじめ、不登校などの学校教育への不適応現象
 - ・小・中・高等学校の連携と発達段階に応じた指導の強化

子どもたちの生活や意識の変容

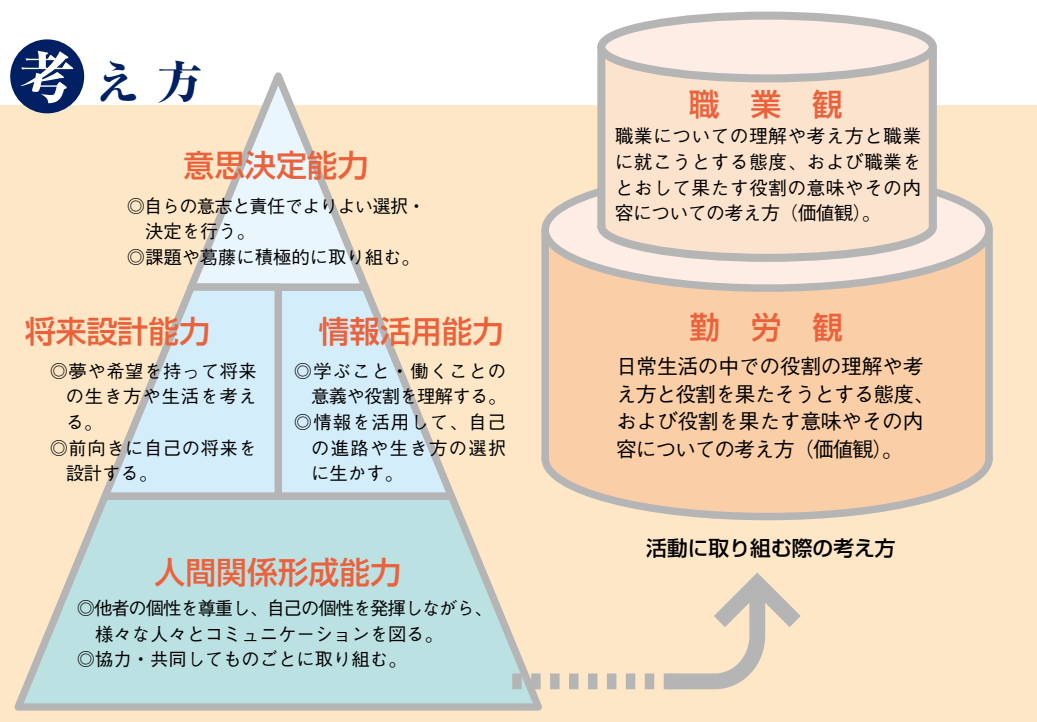
- 1 子どもたちの成長・発達上の課題
 - ・身体的な早熟傾向に比べて、精神的・社会的自立が遅れる傾向
 - ・生産活動や社会性等における未熟さ
- 2 高学歴社会におけるモラトリアム傾向
 - ・若者が職業の選択・決定を先送りにするモラトリアム傾向の高まり
 - ・進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学する若者の増加

社会への移行をめぐる様々な課題

- 1 就職・就業をめぐる環境の激変
 - ・新規学卒者に対する求人状況の変動
 - ・求職希望と求人希望の不適合の拡大
- 2 若者自身の資質等をめぐる課題
 - ・勤労観、職業観の未熟さ
 - ・職業人としての基礎的資質・能力の低下

キャリア教育の考え方

キャリア教育では右にある4つの能力領域の育成を目指します。あらゆる活動の基盤は「人間関係形成能力」の育成にあります。活動を豊かにすることで「将来設計能力」と「情報活用能力」が育成され、目的をもった活動や、活動後の課題解決によって「意思決定能力」の育成が図られるのです。また、活動に取り組む姿勢として、役割に対する勤労観と職業に対する職業観が二層構造になっていると考えてみてください。



※4能力領域を示した、国立教育政策研究所「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」は、次のHPで入手できます。
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/01/04012801/002/007.pdf

取り組みましょう

上越市のキャリア教育

小・中学校が連携して推進します。

一人の人間の成長を考えたとき、小学校から中学校への移行期には連続性があり、キャリア教育上の連携は必要不可欠です。そのため、キャリア教育のプログラムを小・中学校が連携して編成し、実践を通して自己にふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育て、現在及び将来の生活や学習に対する目的意識を培います。

家庭・地域と連携して推進します。

家庭や地域は、子どもたちの成長・発達を支える重要な場であり、様々な職業生活の実践や仕事には苦労もありますが大きなやりがいもあることを有形無形のうちに感じ取らせることができます。キャリア教育における学校・家庭・地域それぞれの役割を理解して取り組みます。児童生徒は上越市の貴重な人材であり、地域全体で育む必要があります。

「生きる力」
「学ぶ力」
「働く力」
を育みます

リアルな学びを大切にします。

将来、自分がどう生きていくかを考えるためには、社会と自分、「働くこと」と自分のかかわりを意識しながら学習することが大切です。そのために、学校生活での具体的な場面を取り上げて学習したり、地域の方を招いたり、職場体験をするなど、できるだけ現実感のあるリアルな学びができるようにします。

キャリア・カウンセリングの考え方を大切にします。

児童生徒にとっては、直面した不安、悩み、戸惑い、疑問は発達課題です。それを自らの力で解決していけるように、教師は、児童生徒の悩みや戸惑いを受け止め、助言をし、解決のプロセスを支援するなどしていきます。

こんな手順で進めましょう。

- step1 キャリア教育の意義や位置付けを全教職員が共有する。
◇校内研修・視察等を通じたキャリア教育の共通理解の促進 pp.2-3参照
- step2 キャリア教育の視点で教育内容を見直し、全体計画を構想する。
◇キャリア教育に関する学習活動の体系化
◇発達段階ごとに育成する能力や態度の明確化 p.10参照
- step3 キャリア教育をグランドデザインに位置付ける。
◇教育課程における位置付けの明確化と有機的校内組織の構築
◇移行不安低減を意識した小中連携の構築 pp.4-5参照
- step4 キャリア教育を実践し、4つの能力領域を育てる。
◇教科・領域や総合的な学習の時間におけるキャリア教育の実践
◇4つの能力領域を育てる教育活動の促進 pp.6-9参照
- step5 キャリア教育の視点で評価し、児童生徒の変容を把握する。
◇評価結果の共有化と評価方法の改善
◇教育活動の見直しと次年度の教育計画立案への反映 p.11参照

こんな効果が期待できます。

<児童生徒は>

- ・役割を果たすことを通して、自信や有用感をもつようになります。
- ・意思決定の経験を通して、日々の生活について積極的になります。

<教職員は>

- ・目的を明確にした指導を通して、授業に工夫が増えます。
- ・支援の方向が明確になり、さらに自信をもって指導ができます。

小・中学校で連携して キャリア教育を実践します。

小・中連携の手順

4つの能力領域を…

キャリア教育には、児童生徒一人一人の職業的発達にかかわる4つの能力領域があります。この4つの能力領域にかかわる能力・態度を、児童生徒の発達段階に応じてバランスよく身に付けていくことで、勤労観・職業観を育むことができるのです。



児童生徒や地域の実態を把握して…

4つの能力領域にかかわる能力・態度は、児童生徒や地域の実態を把握し、どのような児童生徒を育てたいか（目指す児童生徒像）を明確にすることで、設定することができます。



発達段階に応じて…

目指す児童生徒像を具現化するため、児童生徒に身に付けたい4つの能力領域にかかわる能力・態度を児童生徒像の発達段階ごとに設定します。



すべての教育活動で…

4つの能力領域にかかわる能力・態度は教科・領域や総合的な学習の時間など、すべての教育活動において体系化し、計画的、組織的に育むことが大切です。

能力領域	中学校 - 自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。 - 他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 例 「職業人に学ぼう」(2年生) 総合 - 職場であいさつをしたり、わからないことを積極的に質問することができる。 - 実際の仕事を体験し、仕事の楽しさや辛さを実感することができる。 - 日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 - 将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。 - 自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 - 課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。	小学校 高学年 - 話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。 - 異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。 例 「自動車工場で働く人々」(5年生) 社会科 - 正しいマナーで見学することができる。 - 見学や集めたパンフレットから情報を得ることができる。 - 自動車修理工場で働く人の仕事内容や仕事にかかわる話をお聞きし、仕事の大切さが分かる。 - 自分が乗ってみたい自動車を自分で選び、積極的に調べることができる。	小学校 中学年 - 自分や友達のよいところを認め、励まし合う。 - 友達と協力して、学習や活動に取り組む。 例 「ふるさと発見!温泉手伝い隊」(3年生) 総合 - 温泉施設ではたらく人にあいさつやインタビューがきちんとできる。 - 実際に体験し、働く人にインタビューすることで、働く人の工夫や思いやりに気づくことができる。 - 発表会を計画し、自分たちの体験を期限までにまとめ、仲間と協力して発表することができる。 - 実際に温泉施設で責任を持ってお手伝いに取り組むことができる。	小学校 低学年 - 友達と仲良く活動し、助け合う。 - あいさつや返事をする。 例 「わたしたちのお店によこそ」(2年生) 生活科 - 自分の考えをみんなの前で話すことができる。 「市」の仕事を見て、お店の人がどんな仕事をしているか調べることができる。 「市」で調べたことをもとにして、仲間と模擬店の計画を立てることができる。 - 野菜の栽培から販売を行うことで、商品としての野菜を大切に扱うことができる。
	人間関係形成能力 ◇自己理解能力 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力 ◇コミュニケーション能力 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	情報活用能力 ◇情報収集・探索能力 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力 ◇職業理解能力 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	将来設計能力 ◇役割把握・認識能力 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力 ◇計画実行能力 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	意思決定能力 ◇選択能力 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力 ◇課題解決能力 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

※例 例示した活動の詳細はp6～9に示されています。

■小学校におけるキャリア教育の実践例

自分の役割に興味をもち、人とのかかわりをもつ活動

生活科 2年生 「わたしたちのお店によこそ」

生活科では、子ども一人一人が個性を発揮しながら、身近にある具体的な体験や活動を通して、子どもが自ら学び、生きていくための力を身につけることを大切にしています。「地域」や「地域で働く人」へとかかわりを広めた販売体験活動を構成することで、自分の役割や責任をしっかりと果たし、たくさんの人と適切に接する力が育っていきます。中学生、高校生と連携した店舗経営の活動を通して、販売することの楽しさを味わいながら、自分の個性を発揮して人とのかかわる力を高めることができます。

栽培活動と販売活動をリンクさせることで、野菜作りへの自信が深まり、主体的に販売にかかわることができます。



「調べて見通しをもつ」活動

- ・高校生からお店の概要を教えてもらう。
- ・「ポイントカードの作成」「品物の提供」について協力できるかについて話し合う。
- ・お店の人はどんな工夫をしているのか、「市」で調べる。

野菜の栽培・お店ごっこ遊び・市探検の活動を相互に関連付け、仕事を見つめる目を養うことができます。



「調べたことを生かす」活動

- ・「市」で調べたことをもとにして、グループに分かれ、模擬店の計画を立てる。
- ・計画をもとに、お店屋さんごっこ遊びを行う。
- ・お店屋さんごっこの振り返り活動を行い、工夫の成果や課題を話し合う。

地域での販売体験によって、地域の一員としてのかかわりを実感でき、また、買う人と売る人との関係には、必然的にコミュニケーション能力が発揮されます。



「経験を踏まえ、実際に計画・実行する」活動

- ・「お店屋さんごっこ」活動の様子を高校生に伝える。
- ・高校生や中学生にお願いしたいことをまとめ、お願いをする。
- ・中学生や高校生とともに、「お店での販売活動」を体験する。
- ・サツマイモを収穫し、市で販売する計画・準備をする。
- ・「市での販売活動」を体験する。
- ・販売体験活動後、がんばった自分・できるようになった自分についてまとめる。

体験を通して、働く人とかかわる活動

総合 3年生 「ふるさと発見! 温泉手伝い隊」

総合的な学習の時間では、一人一人が課題をもち、主体的に活動していくことで、課題解決能力や生きる力を身につけます。

3年生では、社会科の地域探検や地域の産業調べと関連付けることで、地域で働く人との体験活動を仕組むことができます。

身近な働く人や仕事と触れ合うことで、いろいろな職業や生き方が分かってきます。さらに、体験活動を通して仕事の大変さとともに工夫や喜びも働く人と一緒に味わうことができます。

施設見学を最初にするすることで、自分たちのできる手伝いを実感し、お手伝い体験への主体的なかわりができます。



「調べて見通しをもつ」活動

- ・温泉施設を見学して、施設や仕事の概要を教えてもらう。
- ・どんな協力ができるかについて話し合う。
- ・どんな工夫をしているか予想する。

実際にお手伝いをしながら、働く人にインタビューすることで、働く人の工夫や思いに気付いたり、責任をもってお手伝いに取り組んだりする姿が期待できます。



「実際に体験し、追求する」活動

- ・実際の仕事の内容について、教えてもらう。
- ・実際に体験し、働く人にインタビューをする。
- ・温泉の手伝いについて話し合い、よくできたところ、うまくできなかったところを振り返る。

体験の発表を、お世話になった方や保護者、他のコースの友達にすることで、さらに友達と協力してまとめ・発表活動に取り組むことができます。



「まとめ・発表する」活動

- ・温泉の手伝いを温泉施設で働く人や他のコースの友達、家の人に知らせる計画を立てる。
- ・調べたり、体験したりしたことをまとめる。
- ・発表会を計画し、発表し、感想を聞く。

仕事する人の生き方にふれ、職業に対する認識を深める活動

社会科 5年生 「工業の盛んな地域を訪ねて～自動車工場働く人々～」

小学校5年生の社会科は“産業社会学習”と言われます。農業、水産業、工業の現状や特色、さらに運輸・通信などの産業を加えた内容を学習していきます。

この自動車工業にかかわる学習では、実際に自動車工業の仕事に携わる人たちとの体験やコミュニケーションを通して、その人たちの生き方にふれ、勤労観や職業観の基礎を育むことにつながります。これがキャリア教育の視点です。

自分が調べてみたいことや内容を自分で選択・決定します。

「自己選択し学習課題を設定する」活動

- ・資料や生活の中から自分が乗ってみたい自動車を選択する。
- ・選んだ車がどのようにしてつくられるのかを予想し、調べたいことを決める。

自分の課題に沿って実際に見学することを通して、様々な情報を得ると同時に、働く人の生き方にふれることができます。



「体験を通して追究する」活動

- ・自動車のパンフレットを集めたり、販売店の人たちの働いている様子にふれたりする。
- ・自動車修理工場を営んでいる保護者の家を訪問し、「仕事の内容」や「この仕事を選んだ理由」「自分で大事にしていること」などについてお話を聞く。

自分の課題に沿って調べたことをまとめ、友達の発表を聞くことを通して様々な考え方にふれることができます。

「調べたことをまとめ、発表する」活動

- ・自分の調べたことや見学したことをもとにまとめる。
- ・まとめたことをグループで発表し合い、他の友達の考えにふれ、それぞれのよさに気付かせる。

■中学校におけるキャリア教育の実践例

仕事と学習、社会と学習とのかかわりを学ぶ

理科
1年生

「プロから学ぶ！ ～石材店訪問～」

地域の石材店を訪問し、様々な岩石を観察し、分類したり、標本を採集したりすることで、学習内容の定着と自然への興味・関心を高めます。

職業人のお話を通して、職業についての理解を深め、仕事と社会との役割を理解することができます。また、日常生活と学習との関連を学ぶことによって、学習の必要性や大切さを理解し、今後の学習への意欲を高めることができます。

石材店の方から岩石の説明を聞き、学習した知識が仕事とかかわりがあることを理解することができます。

石材店で岩石について学ぶ

- ・いろいろな岩石の種類とその産地、産状、でき方、用途などそれぞれの岩石の特徴についての説明を聞く。
- ・授業で学んだ知識と石材店の方のお話をつなげる。
- ・日常生活と岩石の関連を考える。
- ・実用的な観点で、理科学習の岩石分野への興味を深める。



石材店できれいに研磨された岩石を採集し、観察することで職人の技術のすばらしさを実感することができます。

岩石サンプルを採集し、岩石組織のちがいについて学ぶ

- ・研磨された岩石片からサンプルを採集し、岩石の組織を観察する。
- ・等粒状組織や斑状組織を研磨された岩石で確認する。
- ・火成岩や堆積岩などの様々な岩石の違いを観察する。



石材店の方へのインタビューを通して、石材店の仕事内容を理解し、仕事や岩石への思い、仕事と社会との関わりなど、職人の職業観に触れることができます。

石材店の仕事内容と社会とのかかわりについて学ぶ

- ・石材店の作業場を見学し、仕事内容（切る・磨く・削る）と機械の説明を聞く。
- ・石材としての岩石の利用について説明を聞き、岩石がどんな製品として社会で利用されているかを知る。
- ・仕事と生きがいについて学ぶ。



勤労観、職業観を育てる職場体験学習

総合・特活
2年生

「職業人に学ぼう」

総合的な学習の時間では、生徒一人一人がテーマを設定し、体験活動や調査活動を行い、その結果を発表することでよりよく問題を解決する力を育て、自分の生き方を考えます。

職場体験学習では、社会のルールや人との接し方を学習することでコミュニケーション能力を育て、職業について調べたり、体験したりすることにより職業観や勤労観が育まれます。また、自己PRカードやアンケート、体験発表会を通して自他の理解を深めます。

ソーシャルスキル等の活動で人との関わり方を学びます。

「社会のルールや職業を理解する」活動

- ・ソーシャルスキルをとらえて対人関係について学習する。
- ・職業レディネステストを実施し、自分の職業的なパーソナリティタイプを理解する。
- ・自己PRカード・事前アンケート・職業選択の基準を記入する。
- ・先輩やハローワークの人から話を聞いたり、職業について調べたりする。



事業所決めから、体験まで主体的に関わり、見通しをもって活動する力がつきます。職場体験をとおして、働く意義を実感することができます。

「はたらく意義を感じる」体験活動

- ・アポイントメントをとる。
- ・体験する事業所や職種について事前学習する。
- ・体験内容の打ち合わせ・予備体験をしたり、面接・事前指導を受けたりする。
- ・依頼文を送る。
- ・職業体験をする。（一日ごとに事業所から評価用紙に記入していただく）
- ・事業所に体験のプログラムを作成していただく。



体験をまとめることで、働くことや自分の生き方について考えを深めます。発表会を行うことにより様々な考え方にふれます。

「自己理解を深める」活動

- ・報告書・礼状・体験作文を書く。
- ・事後アンケートを記入する。
- ・体験した内容を新聞形式にまとめる。
- ・発表会を行う。
- ・体験した職業と自分がなりたい職業との関連を考える。



福祉体験を通し、生き方を考える活動

総合
3年生

「誰もが住みよい上越市を目指して」

3年生は、全学年統一テーマ「私のふるさと上越市」のまとめとして、福祉体験活動を通して人とかかわり方を学び、自らの生き方を考え、上越市の未来像を提言します。

福祉施設を利用する人たちや働く人たちとの交流を通して、コミュニケーション能力や、自他の理解能力を身に付けます。「福祉」の現状を理解しながら、自ら課題を見だし、主体的に解決する意思決定能力や、将来設計能力を高めることができます。

調査や疑似体験を通して情報を収集・活用・分析し、主体的に追求テーマを決定することができます。

「調べて見通しをもつ」活動

- ・福祉の歴史・現状・上越市の施設を調べる。
- ・疑似体験グッズを用いて、介護する側・される側の情報を得て、施設訪問に向けて見通しをもつ。
- ・追求テーマを決定する。
- ・体験先を調べ決定し、訪問日程や活動内容の打ち合わせをする。



互いの個性を生かす活動を工夫しながら自己・他者を理解します。訪問先では他者を配慮することでコミュニケーション能力が身に付きます。

「コミュニケーションの楽しさを感じる」体験活動

- ・9月～10月にかけて隔週で福祉施設を4回訪問する。
- ・夏休み中に一日訪問を行い、その体験をもとに、9月からの具体的な活動計画を立てる。
- ・訪問しない週は、体験を振り返り、改善点を踏まえて次週の訪問の準備をする。



様々な人との交流を通して、いろいろな生き方・仕事・役割に気づき、将来の自分の姿に関心を持ち、前向きに自己の生き方について考えを深めることができます。

「自己の生き方を見つめる」活動

- ・体験で学んだこと・感じたこと・学習したことを発表し合い、体験を皆で共有する。
- ・福祉講演を通して理解をより深める。
- ・「上越に生きる私」というテーマでレポートをまとめる。
- ・福祉体験を通し、これからの自分の生き方について考える。



キャリア教育で教育活動を見直す

キャリア教育の視点で教育活動をどのように見直すか

キャリア教育では、これまでの教育活動をキャリア発達にかかわる4つの能力領域で見直すことで体系化し、より機能的に展開できるようにします。その際に、「児童生徒の実態」「学校評価」「保護者の願い」「地域の実態」の4つの視点を用いることで、児童生徒の実態や学校の課題に即し、さらに地域に根ざした明確な指導計画や学習内容を示すことができます。その結果、児童生徒は目標をもっていきいきと活動に取り組むことができるのです。

以下は、理科、体育祭、清掃活動をキャリア教育の4能力領域の視点で見直した例です。

「児童生徒の実態」からの見直し

アンケート調査や日常活動における児童生徒の実態を的確に見取り、発達段階に応じた達成可能な能力・態度を具体的に設定し、活動内容を見直しましょう。

「学校評価」からの見直し

昨年度の学校評価や活動後の評価を踏まえ、より効果的な活動になるように変更や改善を加え、教育活動全体を見直しましょう。

教育活動の見直し例（中学校の場合）				
領域	8つの能力	教科（理科）	体育祭	清掃活動
人間関係形成	自他の理解能力	課題に対して自分の考えをもち、他の考えを聞き入れることによって、より深く考えることができる。	自らの個性を生かせる役割を見つけ、互いに尊重しあいながら、積極的にその役割を遂行することができる。	協力して清掃に取り組むことで、役割を通し自分と他者とが関わっていることを知り、互いに認め合いながら活動できる。
	コミュニケーション能力	他者とのコミュニケーションを通して、協力しながら課題を追求することができる。	学年の枠を超えた団編成の中で、互いに認め合い、協力し合い、必要なことを伝達し合うことができる。	他の班員と協力したり、声を掛け合ったりしながら、全員の力でよりきれいにしようとする可以尝试。
情報活用能力	情報収集・探索能力	必要な情報を探したり、観察や実験で得た情報を整理・分析し、発表することができる。	昨年までの活動例や自分たちのアイデアを生かし、創意工夫をすることができる。	時間内でよりきれいにするために、道具の数や人数配分（役割分担など）について、調整を図ることができる。
	職業理解能力	地域の身近な職業人とのかわりを通して、理科の学習と職業とのかわりを理解し、学習の大切さがわかる。	団体行動をとる中で、マナーや規律の必要性や意義を体験しながら理解することができる。	みんなで協力し、責任を果たすことが、将来の職業生活にとって必要なことであることがわかる。
将来設計能力	役割把握・認識能力	自分の役割を理解し、仲間と協力して観察や実験を行うことができる。	体育祭実行委員会を中心に、団や委員会内で、自分の役割を認識した上で、その責任をきちんと果たすことができる。	自分の役割を理解して、精一杯清掃活動に取り組み、責任を果たすことができる。
	計画実行能力	観察や実験の計画を立て、追求活動を行い、結果によっては工夫修正し、的確に結論を導き出すことができる。	時間や人数・予算など、限られた中で計画し、目標実現のため実行していくことができる。	手順や段取りを考えて、時間のかけ方や方法を工夫するとともに、学校全体をきれいにするという意識で、のりしろ清掃を行うことができる。
意思決定能力	選択能力	選択課題では、自分の興味・関心のある課題を見つけ、解決することができる。	限られた準備期間の中で、効率的でより優れた方法を選択し実行することができる。	汚れ具合や時間などの条件に応じて、適切な判断で清掃を行うことができる。
	課題解決能力	観察や実験のレポートを作成し、ねらい、方法、結果、考察の一連の追求活動を行うことができる。	決められた時間内で準備を終わらせ、万全の状態で当日を迎えようと努力することができる。	毎回課題意識をもって清掃に取り組み、使用する人や来校者の気持ちを考えた清掃を行うことができる。

「保護者の願い」から見直し

保護者が学校に対して、児童生徒にどんな力を身につけることを望んでいるかを、アンケート等を参考ににつけたい能力・態度を見直しましょう。

「地域の実態」からの見直し

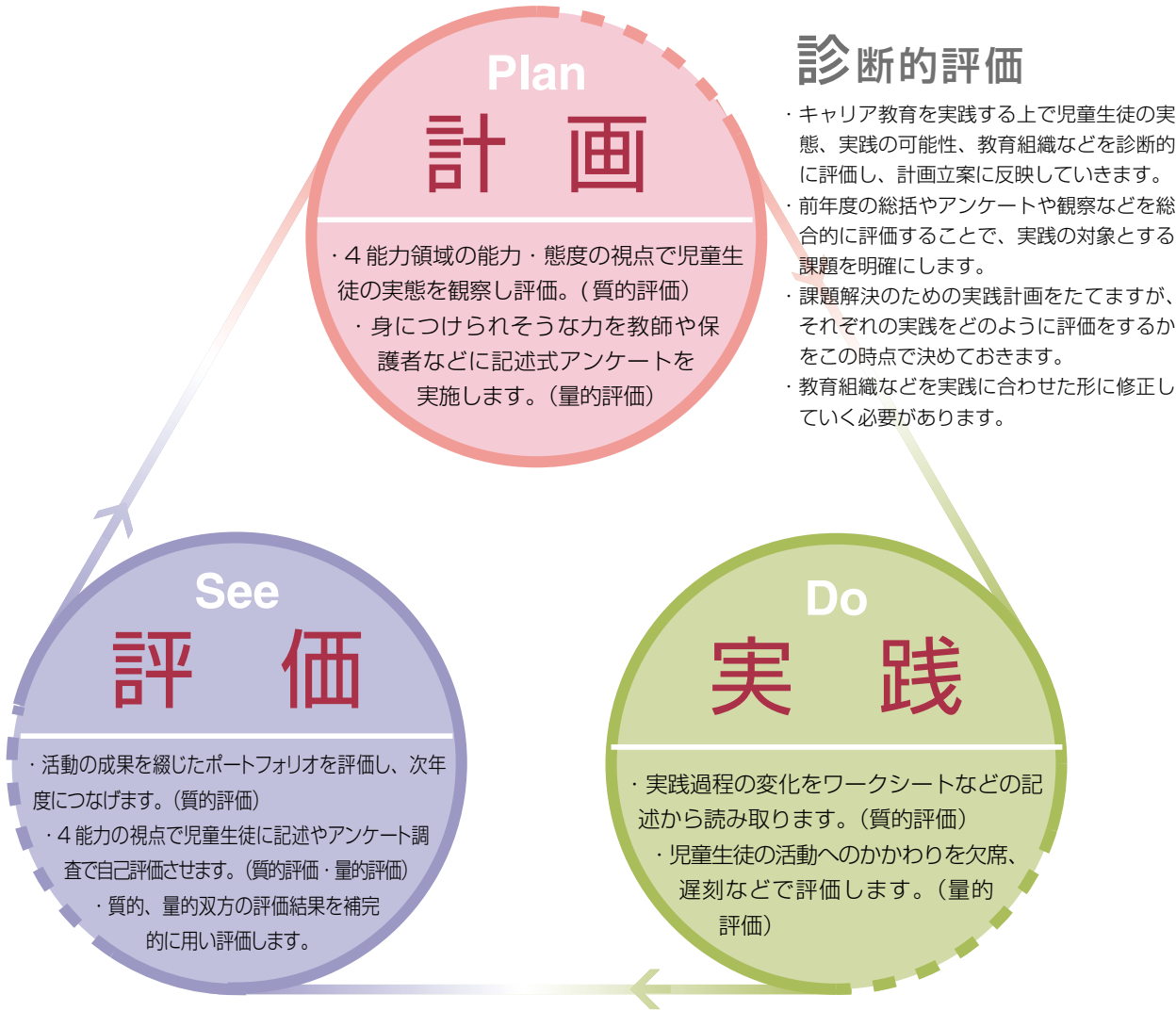
地域の声や地域の実態を十分に考慮し、地域とともに児童生徒を育てるという意識をもって、地域の特色を生かした教育活動になるように活動内容を見直しましょう。

キャリア教育を評価する

児童生徒の変化をどのようにとらえ教育活動を評価するか

計画、実践、評価のそれぞれの段階に評価はあります。計画する段階で様々な要件を診断する「診断的評価」、実践の過程で児童生徒の達成や反応をもとに実践の修正のために行う「形成的評価」、そして1年間の教育活動を評価し次の計画につなげる「総括的評価」の3種類です。

評価の具体的方法には、記述式アンケート、ワークシートやポートフォリオの記述を元に行う「質的評価」と選択式アンケートの集計など数や量にもとづき評価する「量的評価」があります。



診断的評価

- ・キャリア教育を実践する上で児童生徒の実態、実践の可能性、教育組織などを診断的に評価し、計画立案に反映していきます。
- ・前年度の総括やアンケートや観察などを総合的に評価することで、実践の対象とする課題を明確にします。
- ・課題解決のための実践計画をたてますが、それぞれの実践をどのように評価をするかをこの時点で決めておきます。
- ・教育組織などを実践に合わせた形に修正していく必要があります。

形成的評価

- ・教育計画立案の際の診断内容を確認し、修正するための活動で、児童生徒の変化を実践過程の中で評価していきます。
- ・特定の活動で意図した能力や態度がねらいどおり育成されているか、前後の活動との関連が機能しているかなどを評価します。
- ・形成的評価で修正の必要が出た場合は思い切って計画の改善を行います。

総括的な評価

- ・診断的評価による実践が適切であったか、設定した能力や評価方法が適切であった評価を行います。
- ・成果と課題をもとにキャリア教育の視点での見直しが実践に反映されていたかどうか評価します。
- ・次年度の計画立案にむけて、診断的評価、形成的評価の方法も含め総合的に評価を行います。
- ・次年度の診断的な評価に資するような形でまとめていきます。